

## この夏、2つのセミナーを開催

7月、盛夏、酷暑。とりわけ東海地方は連日気温40℃に近く、大相撲の名古屋場所で優勝した照ノ富士の体は、取り組み前から汗が光っていましたね。

そんな名古屋と、こちらは天気というよりごった返す人の波に思わず汗の東京・渋谷で、協会主催のセミナーが行われましたので、振り返りたいと思います。(編集部)

**舞台音響家のための公開講座《研究コース》  
「サウンドエンジニアの必須！」パートV  
～音屋が知っておきたい電気とノイズとアースの関係！  
いまプロオーディオ業界で200V化が叫ばれる訳！～**

期 日：2024年7月4日(木)

場 所：ミュキホール(愛知県名古屋市)

ナビゲーター：松本 泰(TOA株式会社 技監)

主催・制作：公益社団法人 日本舞台音響家協会

協 力：TOA株式会社

\*この事業は、文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業《芸術家人材育成》)の助成を受けて行われました。



TOA株式会社技監、松本泰氏を迎えての恒例の電源セミナーです。自分たちの場所でも開催してほしいという声に答え、昨年10月の山形につづいて今回は名古屋で行いました。

やや長いタイトルにある通り、当初はアースを精確に取ることによりノイズを劇的に減らすことができるという内容でしたが、5回目となる今回は、ノイズの問題を突きつめると必然的に出て来る電源200V化について、そのメリットと現在の問題点を解説して頂きました。

### 【受講者の感想(抜粋)】

◎前半の座学の部分では、海外と日本の電源事情の違いや日本のコンセントの形状のお話から、極性やアースの問題の理解が深まりました。

後半では、実際にスピーカーを使用して音質の比較をすることができたため、100Vと200Vの違いについて身をもって体験することができました。

◎電源を取るといういつも当たり前に行っている作業を、原理と性質を理解した上で正しく取ることによってこんなにも変化が生じるものかと衝撃を受けました。

◎イコライザーではどうしても出来ない根本的な音質の部分を綺麗に出力することが可能であることを実践で体感できました。改めて音響の奥深さと知識の大切さを実感しました。

◎電源を挿せば機材が稼働してしまうため、見落としがちなところや今まで意識できていなかったところを知ることができました。

◎講座前半が日頃の作業や仕込みに関わる内容でしたので、解説や実演を掘り下げたものが聞ける機会があれば嬉しいです。

◎より知識を深め、電気工事士の資格についても取得の必要性を感じました。

※毎回、好評を頂いています「研究コース」の電源セミナーは、9月12日に再び東京に戻り、ライブハウスの「吉祥寺 Planet K」で行いました。



ナビゲーターの松本氏。奥にあるのが、特製の高耐圧絶縁トランス



2024情報通信月間参加行事  
映像制作および舞台芸術表現のための、  
ワイヤレスマイクの電波と運用の知識

期 日：2024年7月8日(月)

場 所：渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール(東京都渋谷区)

講 師：

甲田 乃次(一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構)

杉岡 桃、山上 耕平、山下 智巴(以上、シュア・ジャパン株式会社)

中村 和教(GZ-TOKYO)、品川 大(ミキサー /サウンドデザイナー)

共 催：シュア・ジャパン株式会社・一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構・公益  
社団法人日本舞台音響家協会

協 賛：情報通信月間推進協議会

【タイムテーブル】

13：00～13：05 主催者挨拶

13：05～14：05 セミナー 1 「ワイヤレスマイク運用に必要な電波の基礎」

14：15～15：35 セミナー 2 「アナログvsデジタル」「B帯 / DECT帯 / 2.4GHz帯 /  
Bluetooth / 赤外線」何が違う・どれを選ぶ？

15：50～16：50 セミナー 3 「Wireless Workbenchセミナー(イントロダクション+アン  
テナセッティングの基礎)」

16：50～17：00 Q&A

17：00～17：30 ネットワーキング



情報通信月間は、総務省の主導により情報通信の普及・振興を図ることを目的として1985年に設けられたもので、6月1日の「電波の日」を挟む約1ヶ月間に、全国各地で情報通信に関する200近い様々な行事を開催しています。

その一環として、今年も当協会とシュア・ジャパン株式会社、一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構がセミナーを共催しました。

「アナログvsデジタル」という、オリンピックに絡めた(?)ようなセミナータイトルに惹かれたのか、約200名もの方々が、酷暑の中、東京渋谷の「渋谷区文化総合センター大和田さくらホール」に集まりました。

## 【セミナー 1】

### ワイヤレスマイク運用に必要な電波の基礎

A型ラジオマイクの運用調整を担っている一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構の甲田乃次氏から、ラジオマイク(ワイヤレスマイク)を使用するに当たっての留意事項、その基本の「キ」を話して頂きました。



甲田乃次氏

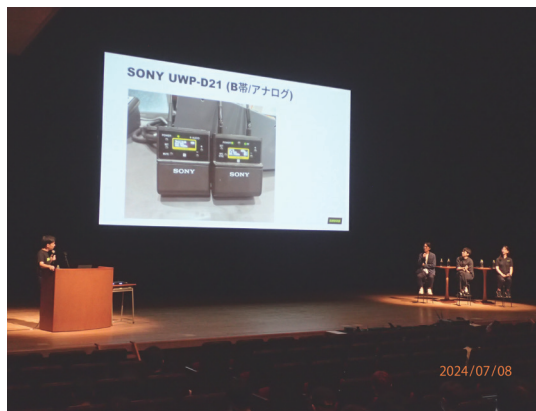
SNSにより手軽に個人輸入できるようになったため、日本の技術基準に適合していない(適合書のない)海外製品が多くなっていることに、特に注意するようにとのことでした。

## 【セミナー 2】

### アナログvsデジタル

## B帯/DECT帯/2.4GHz帯/Bluetooth/赤外線 何が違う・どれを選ぶ?

シュア・ジャパンの山上耕平氏から、舞台ではあまり使用することのない1.9GHz帯や2.4GHz帯、C帯(322MHz)、赤外線などの紹介と、それらの帯域を使用することも多い映像関係のお二人、中村和教氏、品川大氏に山下智巴氏(シュア・ジャパン)を交えてのパネルディスカッションでした。



左が進行役の山上耕平氏



## 【セミナー 3】

### Wireless Workbenchセミナー(イントロダクション+アンテナセッティングの基礎)

最後に、シュア・ジャパンの杉岡桃氏から、ラジオマイクのアンテナセッティング方法、電波の特性と相互変調歪みの特長、そして周

波数の監視とコーディネーションの無償ソフトである「ワイヤレスワークベンチ」(WWB)の使用方法について解説がありました。

シュア・ジャパンの製品だけでなく、他社のラジオマイクの周波数計算もできるとあって、既に多くの方が使用しているWWBですが、このたび6から7へとバージョン・アップ。「ダークモード仕様」「Scan Library機能」などを備えたとのことでした。



杉岡桃氏

※この7月は、1898年に気象庁が統計を取り始めてから126年間で最も暑かったそうです。参加された皆さまに改めて御礼を申し上げます。

ありがとうございました。



当協会の齋藤美佐男理事長(左)と講師の皆さん



展示されたMoveMicなどSHURE製品

